

天才アートKYOTO



天才アートとは、障碍のある人の多くがもつ優れた感性と表現力、そこから湧き出る独創的なアート作品に対して、特定非営利活動法人 障碍者芸術推進研究機構（天才アート KYOTO）が独自にネーミングしたものです。当機構は天才アートを推進し、その啓発・普及活動を積極的に行っています。

会 報
No. 17

天才アート

発行日 2018年4月25日（水）

発行者 特定非営利活動法人
障碍者芸術推進研究機構

天才アート KYOTO

発行所 〒605-0811
京都市東山区大和大路四条下る
4丁目小松町 四条・新道アトリエ
info@tensai-art.kyoto
http://tensai-art.kyoto

編集 株式会社 三六六



「フィギュア/ 伐折羅大将立像（下段左から6番目）ほか」西村 紫苑 Sion NISHIMURA 画用紙・カラーペン・カラーセロハン・セロハンテープ 2017年

展覧会

予告

第4回天才アート企画展を
5月18日から開催します。

第4回天才アート企画展を来る5月18日（金）から、堀川御池ギャラリーを会場に開催します。

今回の展示は、土屋彰男さん（天才アート KYOTO 所属）と大柳憲一さん（洛西ふれあいの里所属）の2人の作品展です。最近の土屋作品は、○▽□などの図形を動物や鳥などに見立てユーモラスに図像化し、シンプルに配置したポップな世界が特徴的です。一方、大柳作品は、あらかじめ色彩構成した画面に、正確な数字をフォントのように順列を決めて羅列した抽象表現が際立っています。この作風のまったく異なる2人の作品です。

が、図形と数字という記号的な要素にこだわって展開される「構成的」ともいえる共通した特長をみることが出来ます。

こうした視点から今回の企画展は、題して『土屋彰男と大柳憲一、2人のコンポジション。』としました。堀川御池ギャラリー2階の2室で展示します。ご期待ください。

◎第4回天才アート企画展

会期 5月18日（金）～27日（日）休館日なし

時間 11時～18時（最終日17時まで）

会場 堀川御池ギャラリー

（地下鉄東西線「二条城前駅」下車徒歩3分／市バス「堀川御池バス停徒歩1分」）

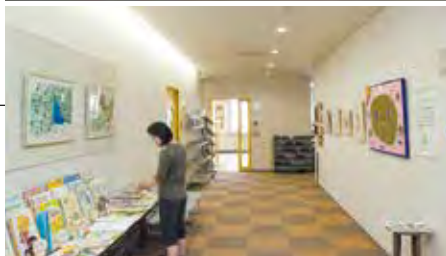


2018年新春に多くの来場者『天才アートABC展』

展覧会

報告

2018年新春企画展「天才アートABC展」を、1月11日（木）～1月21日（日）堀川御池ギャラリー、1月13日（土）～19日（金）東山区総合庁舎2階東山青少年活動センターの2会場で開催しました。「ABC展」のABCとは、「Animal Bird Collection」を意味し、動物や鳥をモチーフにした作品を集めた作品展として企画しました。



堀川御池ギャラリー（上）・東山庁舎2階青少年活動センター（下）



京都市立総合支援学校 PTA 連絡協議会の研修会

堀川御池ギャラリーでは絵画40点と立体作品11点、東山青少年活動センターでは絵画11点と、合わせて62点を展示しました。障がいのある人の作品には、動物や鳥がよく登場しますが、制作された作品の動物や鳥は類似するものが一切なく、一人ひとりの個性やイメージが反映され、その魅力を実際に見せる作品展となりました。来場者は2会場で国内外含めて1017人を記録し、躍動感あふれる個々の作品を満喫できたとアンケートのコメントが寄せられました。

また、開催中の16日（火）には京都市立総合支援学校PTA連絡協議会の研修会が堀川御池ギャラリーで行われ、作品の観賞と重光豊当機構副理事長による「障害者芸術の現状」をテーマにした講演がありました。京都市内の総合支援学校8校に通う児童生徒の保護者と校長先生の45人が参加され、障がいのある人の才能に感動の声が上がっていました。

今年度も、天才アートKYOTO所属作家の作品の中から、さまざまなテーマに沿った企画展や作品展を開催することで多様な視点から鑑賞できる機会を提供していきたいと考えています。

天才アートがやってきた！
～公共空間にアートの彩り～

天才アート作品ポスター展

2018年2月3日(土) から3月8日(木) まで京都駅新幹線地下自由通路にて、京都市下京区役所「下京区民が主役のまちづくりサポート事業」補助による「天才アートがやってきた！」～公共空間にアートの彩り！～「天才アート作品ポスター展」を開催しました。

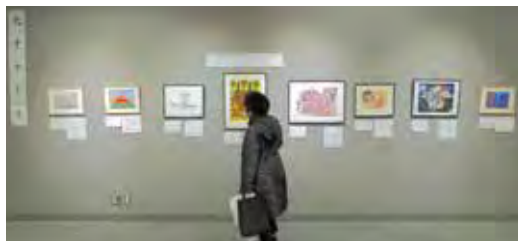
40メートルの壁面に紹介パネル2枚を含め41枚ものB1サイズのパネルが並び、壮観な様相を呈していました。観光客をはじめ通路を利用される多くの方々の目に触れ、関心を持っていただくことができました。これからも展覧会会場とは違った、このような公共の場で多くの方に天才アートKYOTOの作品に触れていただける機会が増えることを期待しています。



「第28回ニッコーを支えるチャリティ・オークション」に出展

2018年2月15日(木) から19日(月) までの5日間にわたり大丸京都店6階イベントホールにて、公益社団法人日本国際民間協力会NICCOCOが後援されている「第28回ニッコーを支えるチャリティ・オークション」に、天才アートKYOTOの複製画8点を出展しました。

このたびのオークションでは、関西を中心に日本全国の芸術家、宗教家、茶道のお家元や文化人など162名から200点以上の作品の寄贈がありました。その中に、ニッコーを支えるチャリティ・オークション実行委員会様からのご好意で、複製画を出展させていただくことができました。美術品に興味をお持ちの方々に観ていただく機会が得られたとともに、たくさんの方々に入札していただくことで作品の人気を実感することができました。複製画の売上金は、作家へのロイヤリティと当機構の運営費に還元され、また、販売定価を超えた分の入札金は、NICCOCO様へ寄付させていただきます。



会場の一角に設けられた天才アートKYOTOの複製画コーナー

「京都市PTAフェスティバル」にブース出展「お絵描き講座を開催

2017年12月16日(土)、京都市勧業館「みやこめっせ」で行われた第20回京都市PTAフェスティバルに「文化庁移転・私たちができること推進チーム」のメンバーとして、「私たちが伝える！文化のチカラ講座」第1回講座「見る！感じる！描く！天才アートKYOTOのお絵かき講座」を開催しました。

紙やクレパスなどの筆記具を用意したブースにたくさんのお子様たちが次々にやって来て、天才アートKYOTOの作品をヒントに自由にお絵かきを楽しんでいました。また当機構の作品をデザイン化したポストカード、クリアファイルなどのオリジナルグッズの販売も好評でした。



天才アート KYOTOのお絵かきコーナー

「天才アートがやって来た展 in 花園大学」を開催

2017年12月19日(火)、花園大学と京都労働局、発達障害学生キャリア支援隊が連携して開催された「精神・発達障害者しごとサポーター養成講座」の会場に隣接

して、「天才アートがやって来た展 in 花園大学」として複製画9点を



複製画に見入る講座参加者の皆さん

同大学拈花館ねんげかんの会場には、精神障害・発達障害のある方々の雇用サポートを学ぶ参加者をはじめ多くの学生が訪れ、作品に関心を寄せていました。

地域の小学校での作品展に参加

2017年12月10日(日)に、天才アートKYOTOの所属作家石原寛子さんの作品が、石原さんの母校である京都市立御室小学校で展示されました。この展示会は御室社会福祉協議会の主催で開催され、絵画、書道、写真など、子どもから大人まで地域の方々の作品が展示されます。

作家が生活する地域の近くで作品を展示することで、作家の才能や作品の素晴らしさが身近に感じられ、作家への支援活動や日常生活がより豊かになることにつながると期待されます。今後も恒例の作品展の充実と合わせて、作家の居住地域との連携も広げていきたいと考えています。



石原寛子さんの作品(手前)と会場の様子

第2部 鼎談（抄録）後編

「障害者芸術の振興にかかわる諸問題」

文化庁地域文化創生本部 事務局長

松坂浩史氏

多摩美術大学学長・京都芸術センター館長

建畠哲氏

甲南大学文学部 准教授

服部 正氏

〈進行〉天才ARTKYOTO 理事長

高島 寛

欧米のマーケットについて

高島 作品の評価についての議論は尽きない。話を変えて欧米のマーケットについて服部先生にお話を伺いたい。

服部 ヨーロッパでマーケットができたのは1990年前後で、1992年にアウトサイダーのアートと現代アートを対比する展覧会が開催されて、その頃からアウトサイダーアートに限定したアートフェアが行われるようになった。当時は、現代



写真右から、服部 正氏、建畠 哲氏、松坂浩史氏、高島 寛

アートに飽きたコレクターがフェードアウトし、作品を買い求めるようになった。その後、2005年頃から現代アートの作品を買い求める同様の感覚で、アウトサイダーアートの面白い作品を買い求めるというコレクターも増え始めた。これは現代アートの作品が高くなりすぎて、アウトサイダーアートの作品の方が手ごろな価格で手に入るということだろう。これに対し、日本はそもそもアートの市場があまりないので、日本人が普通に作品を買い求める社会をどうデザインして創っていくかを考えなければ障害者のアートのマーケットの課題は変わらない。

建畠 ギャラリー宮脇という画廊の顧客に、アウトサイダーのアート専門ではないがコレクターがいると聞いている。大阪では美術館で市が開催したチャリティー展覧会から派生し、作品の売買がおこなわれている。オークションは難しいがアートフェアはいろいろなされているので、そこでブースを設けるのが良いと思う。マーケットの話から離れるが、私は障害者の芸術を楽観的に思っていて「障害とは才能である」と言っている。障害者はある生活の局面では不自由かもしれないが、障害そのものがプラスになり才能として開くことがある。

京都とアート

高島 障害者アートは西洋美術の歴史の文脈に乗っていないために混乱があるのではないか、21世紀には新しい文脈が始まるのではないかと空想しているが、障害者の芸術は一つの作品として可能性は高いという

ことは、先生方のお話からも確かであるので、そのマーケットを作ることとは、行政も影響するのではないかと思うのですが、京都という特殊な場所を踏まえてご意見を伺いたい。

松坂 障害者芸術に限らず、アートのマーケットがないことは文化庁でも施策を考えなければ課題になっている。障害者のアート作品を買い取たいと思っている人はいらるはずだが、売っている作品数が少ないし、売っている場所もない。例えば私がポケットマネーで買えるアート作品が欲しいと思ったときに、現代アートの値段を考えると、障害者のアートが最初のマーケットになる可能性があると感じる。

服部 展覧会で見た作品を買い取たいという人がいる。海外のコレクターが日本の障害者の作品が買えない、どうしたら買えるかが分からないとよく言われる。作品を取り扱う画廊が少ないこともあるが、作家の家族が売りたいと言えないケースが多いことも買えない原因の一つである。家族の心情はよく分かるが、家族がいなくなった時、作品が処分される可能性があり残念なことである。

建畠 施設で膨大な数の作品を保管するのは難しい。セレクトした作品をコレクターに結び付けていく道をつくるのは画廊であるが機能してないために流通の期待は薄い。行政や企業がアイディアだすなど提言が必要であり、率先して啓発する人がいてほしい。

服部 障害者の作品は私たちが求めやすい

価格である代わりに画商としては難しいので、比較的安いアートフェアに行政の支援で障害者のブースを作って販売していくのはどうだろうか。

松坂 例えば、天才アート展のような作品展で値札をつけることは可能なのか。

重光（天才ARTKYOTO 副理事長）公共の展覧会場は制約があるが、私設のギャラリーなら可能。（フロアより）

建畠 学生たちがチャリティーオークションをやったら出品したもの全て売れた。障害者の作品もオークションが合うように思った。

高島 ヨーロッパでは11月は各地で盛んに写真展が行われ、若者の長蛇の列ができていた展覧会は世界の画廊がそれぞれブースをもち販売も同時に行われ、そこがある意味で世界の流行の拠点となっている。京都でもそれができないかと思う。一過的にはなく10年20年と進めていけば世界が「京都とアート」に目を向けるであろうし、我々も動きやすくなると個人的に考えている。

服部 大阪府からの助成を受けて都島アートセンターで作品を売っているが、一点も売れなければそのプロジェクトは続かないので、市民がどう動くかが大事である。

高島 障害者芸術とは何かという問題は議論を重ねていけば具体的なことが固まってくと思う。作品のマーケットをどのように広げ改革していくかについて考えるシンポジウムになった。障害者芸術を推進させるための機会が持てた。

（天才アート展シンポジウム2017年10月28日より）

トピックス

レポート

全国車いす駅伝の作曲を終えて

―下嶋 真理

全国車いす駅伝のネット中継で使われるレース中の曲とエンディングの曲を作曲しました。昨年、「共生の芸術祭」イベントで千佳の活動を紹介して下さった皆さんからのご依頼でした。

レース中の曲の作成にあたり、千佳は昨年のレースの様子をYouTubeで見てイメージを湧かせていました。サンプル曲を4曲作り、依頼者様に2曲選んでいただいたところで、インフルエンザでダウン。納期が迫る中、なんとか1週間で回復。3分ほどのサンプル曲を5分ほどに仕上げるのですが、長くするために新しい曲想を盛り込むと一曲としてのまとまりがなくなり、苦労したようです。

エンディング曲については、千佳にしっかりとイメージがあつたようで、サンプルなしの一発勝負で作ることができました。

レース本番の1週間前、ショッピングモールで車いす駅伝の広報イベントがありました。千佳がイベント会場に着いたとき、自分が作った曲が流れているのを聴いて、うれしそうにビックリしているのが印象的でした。

3月11日(日)、レース当日のネット中継では、選手紹介の前に千佳のプロフィール



ルが紹介されました。レース中継では千佳の曲が流れ、エンディング曲は協賛企業のテロップと重ねて流して下さいました。中継の様子を何度も見ながら、千佳がどんなことを思っているのか分かりませんが、心温かい皆さんのご努力によって社会につながる事ができたこと、親として深く感謝せずにおれません。

西陣麦酒タッブルームで複製画を販売

京都市上
京区西陣
産業会館に
ある「西陣
麦酒タッブ
ルーム」の
店内に天才
アートKY
OTOの複製
製画を展示
販売させて
いただいで
います。西
陣麦酒は、
特定非営利
活動法人H
EROSの「
西陣麦酒
計画」とい
う、自閉症
の方々の就
労支援の一
環としてク
ラフトビー
ールの醸造
、販売



西陣麦酒タッブルームの壁面に展示中の複製画

をするプロジェクトとして生まれました。

西陣麦酒タッブルームは、現在販売されている「柚子無碍」を召し上がっていただくために金曜日にのみ開店。その壁面に天才アートKYOTOの複製画が展示され、明るい店内のアクセントになっています。また複製画は、お買い求めになれますのでスタッフにお声がけください。

西陣麦酒の詳細は<http://nishijin-beer.com/>で検索ください。

「きょうものフェスティバル 2018」に出店

2018年3月17日(土)～18日(日)、左京区岡崎の京都市勧業館「みやこめっせ」で開催された同フェスティバルに、天才アートの製品を出展しました。

このイベントは、1200年の悠久の歴史の中で培



天才アート KYOTO の作品が再現された和ローソク(左)と展示ブース(右)

の一つです。

今回の出店は、昨年より連携している「和ろうそく製造販売の中村ローソク」様(伏見区)の協力により実現しました。今後、天才アートKYOTO所属作家の作品と京の和ろうそくとの「伝統と現代」のコラボを進めていきます。(中村ローソク <http://www.kyorousoku.jp/>)

作品保管庫を整備

京都府共同募金会様より赤い羽根共同募金による平成29年度助成をいただき、画材・作品の保管設備などを整備しました。

現在、天才アートKYOTO「新道アトリエ」で活動する40名の登録アーティストは、自らのモチーフに沿って画材・素材を選び、制作を進めています。以前は設備が整っていなかったため、制作中の作品の出入れや出来上がった作品の保管は、スタッフがすべて行っていました。

今回の整備で、作家ごとの引出式のケースになったことで、特に画用紙作品は自分で出し入れができて、制作途中の作品の一時保管や過去の作品の確認もできるようになり、よりストレスなく制作活動ができるようになりました。また、作品の保存や作品履歴確認もより安定します。



大型作品保管棚(左)と画用紙など作品保管ケース(右)

寄稿

描くことは人とつながる コミュニケーション手段

庄野 真由美

〈幼児期〉絵を描き始めるまで

隆太は歩き出した頃からじっとしていることが苦手で、少し目を離すとどこかへ行ってしまうたり言葉も少なかったりしたこともあり、2才半ごろ児童相談所の診断を受けて「カンガル教室」という療育に通うことになりました。

そこでは主に親子で歌や音楽に合わせて体を動かしたりしながら楽しく遊んでいました。しかしながら、できるだけ早く集団生活に慣れさせたほうが良いと考え、入園を希望するかなり早い時期から保育園探しを始めました。ところが近くの保育園を回ってもどこも障害児を受け入れて下さる所は無く、3月になってようやく決まったのは電車でひと駅先の保育園でした。

4月になり保育園に通いだしたある日のこと、電車が動き出して間もなく、突然自分たちが乗っている車両の端から端までを走って2〜3往復しはじめました。満員電車ではありませんでしたが、とりあえずつかまえて座らせてもまた立ち上がるのくり返して、とにかく駅につくまでの5分間がとても長く感じられ嫌でした。

しかしこのままでは危険で、他の方にも迷惑がかかると大変なので、何とか隆太の気を引くため絵本の読み聞かせを試みようと考えました。最初のうちは片手に絵本片手に隆太を抱えて見せていましたが、案の定すぐに立ち上がっては連れ戻すという

日が経きました。

それからひと月ほど過ぎたころ、ようやく電車内を歩くこともしなくなり、座席から離れることもなくなりました。そして電車内でも保育園でも少しずつ絵本を手にすることが多くなっていました。

当時特によく見ていたのは「ニンゲル」という妖精の人形の写真集や「モチモチの木」、「花さき山」、「三コ（さんこ）」という版画のさし絵が特徴的な本や動物図鑑などお気に入りが増えると共に、そのころからひな祭り会で見たお内裏さまや機関車など、だんだん形になった絵を描くようになりました。

現在、隆太が好きな絵

何が好きかたずねてみると、鬼や鬼も含めたお面、ギター、機関車、似顔絵、動物、仏像などがあがりました。その中の2つについて、どういうふうに考えながら描いているのか聞いてみました。

動物の絵について

動物の絵を描く時は似顔絵や仏像と違い、自分の想像したものを描いています。その中で2匹の子熊の絵と、2匹の背の低いキリンの絵について聞いてみました。



まず小熊の絵は自分で短い話を考えたようで、「2匹は友達で赤いカバンにお弁当を入れピクニックにやってきました。川に着くと水の中では魚が泳ぎ、それを見た小熊たちは魚つりをしたいなと思っています」と言いました。

次に2匹のキリンの絵は、なぜ背が低いのかというところ、ある日牛乳パックを見て思いつき、顔の部分は紙コップ、体は牛乳パックを横向きに、脚はアイスクリームのカップの形を思い浮かべて描いたそうです。いずれも子供っぽい発想かもしれませんが、私には絵本の中の一場面を見ているように考えました。

仏像の絵について

おそらく隆太の絵の中でよく見ていただいているのは仏像の絵だと思います。

その中でも特に不動明王が好きになったのは、数年前に手にした「京都ミュージアムロード」という冊子で、「松本明慶佛像



彫刻美術館」の紹介を見つけ出向いたことがきっかけでした。

以前から休日にはお寺で仏像を観ることもよくありましたが、こちらには小さな子供達と遊ぶ優しい表情をした菩薩像、美しい模様が書かれた衣をまとった観音像ほかたくさんさんの仏像が展示されていました。中でも不動明王を真近で観た時は、その迫力ある眼差しと光背や胸元の装飾の彫りの繊細さに驚きました。

隆太も不動明王の力強さ、剣を持っているてかっこいい所が好きになったとのこと、それからは毎年出掛けようになりました。

隆太が仏像を描く時は、ポストカードや本を見ながら進めていきます。根気と集中力が必要になりますが、顔や目の表情、きれいな飾り、細かい線や模様をきちんと丁寧に描くことが楽しいそうです。

また、その作品を「すごいね」と言っていただけでもあり、たぶんその言葉が原動力となって隆太の「描きたい」という気持ちの後押ししてくれているのだと思います。



「入ぼのダ」 画用紙・カラー
ペン・色えんぴつ 2017 年

TENSAI ART NOTE

天 オ
ア アート
ノ ノート

西村 紫苑 Shion NISHIMURA 2002年生

西村紫苑は、画用紙を切り・丸め・カラーペンなどで着色して身体各部を作り上げた後、セロハンテープや接着剤で創造上の魔人像や閻魔大王像や仁王像など表紙のような作品を作り上げていく。そうした制作活動の合間に時折このような絵を描くことがある。彼にとって、こうした絵は「像」のモデルやアイデアを検討したり確かめたりする「構想図」や「設計図」であるようだが、リアリティーやストーリー性に富んだ絵になっている。

西村 紫苑



川田 優也

川田 優也

Yuya KAWATA

1989年生

写真の作品は10年以上前の十代の頃に、彼が自らの手で紙を切り糊で張り付けて制作できたコラージュ作品の一部である。現在は、ハサミの操作などが困難になっているため、代わってPC画面上で画像ソフトを駆使して制作が続けているが、その色彩感覚や造形構成の巧みさはいさかも衰えていない。

「朝の水蒸気がラッシュのスタートを告げる」画用紙・色紙 2008 年頃



「妖怪」 画用紙・カラーペン・色えんぴつ 2017 年



「光と光が混ざり、いやしのロックのように」画用紙・色紙 2008 年頃

久保 直己

久保 直己 Naoki KUBO 1986年生

彼は身近な人や街で見かけた人、テレビに登場した人、さまざまな人物をモチーフに描き続けている。作品はシンプルなタッチの線描とごくあっさりした着色だが、その人物の特長や性質・性格などを見事に捉えており、それと同時にふしぎな生命感のようなものも感じさせて観るものを引きつける。



「井上さん」画用紙・色えんぴつ 2017 年



「お相撲さん」画用紙・色えんぴつ 2017 年



「お坊さん」画用紙・色えんぴつ 2017 年



「女の人」画用紙・色えんぴつ 2017 年

天才アートグッズの 店頭販売開始!!

かねてから支援者やリピーターからの要望があり、また問い合わせが多かった、天才アートグッズの常設店舗販売が始まりました。

店舗は、セブン・イレブン様の京都烏丸六角店、京都阪急大宮駅南店、京都七条大宮店、西院駅南店の4店舗です。ほかには、京都市観光協会の二条城内売店、左京区岡崎の京都市勧業館「みやこめっせ」B1にある京の伝統産業品売場の「紫苑」です。

取扱商品

は、ふろしきとスポンジクロス、京扇子の3品目です（京扇子は「紫苑」のみ）。お近くをお通り



セブン・イレブン様の天才アート KYOTO 商品売場

の節は一度立ち寄りください。また、お知らせの方にもご紹介ください。

「京のかがやき疎水物語」 に作品提供

この度、以前より災害時備蓄用として、京都市上下水道局が販売されている長期保存可能なボトル飲料水「京の水道疎水物語」の名称を「京のかがやき疎水物語」



「心ゆっくり流れてる」
2015年制作、紙・カラーペン、148x100mm

に変更し、ラベルのデザインを一新されることになりました。

このラベルデザインのメインビジュアルに、天才アートKYOTO新道アトリエ所属作家の若林義輝さんの作品「心ゆっくり流れてる」を提供しました。長期保存のきく飲料水の清新さと琵琶湖疎水の環境保全のイメージにふさわしい爽やかなデザインに仕上がりました。

なお、「京のかがやき疎水物語」は、490mlのアルミボトルです。販売など詳しいことは京都市上下水道局ホームページ（www.city.kyoto.lg.jp/suido/page/0000073732.html）をご覧ください。

会員・寄付を募集しています

天才アートKYOTOは、当機構の趣旨や活動に賛同していただける会員を募集中です。会員は「正会員・賛助会員・名誉会員」の3種類。また、寄付金や助成金、「障碍者アートミュージアムKYOTO設立支援基金」などのお申し込みも随時受け付けて

います。詳しくはホームページに掲載していますので、ご協力をよろしくお願い致します。
<http://tensai-art-kyoto>

〔編集後記〕

2月3日～3月8日まで開催した「天才アートがやってきた！公共空間にアートの彩り」天才アート作品ポスター展の会場は、従来のギャラリーや展示場ではなく、京都駅新幹線地下自由通路で、公共の空間を活用した展示でした。通勤通学や観光客など、毎日多くの人たちが行き交う場所での展示は初めてでしたが、私たちの活動に興味や関心をもっていただけの良い機会になりました。

また、第4回企画展「土屋彰男と大柳憲一、2人のコンポジション」は、天才アート展以外では他の施設の作家さんとの初めてのコラボ2人展です。新しい試みの連続ですが、これからもいろいろと従来と違う企画にチャレンジしていきたいと考えています。

【表紙の作品について】

写真にある18体の像は、いずれも画用紙を切り、丸め・カラーペンやカラーセロハンなどで着色して、身体各部を作った後、セロハンテープや接着剤で一気に組み立てたものである。早いときは1時間ぐらいで1体を仕上げる。小学生時代からのめりこんで創り続けていて、すでに数百体に達している。また立体作品制作の合間には、カラーペンや色えんぴつを使って絵を描くことがある。



「フィギュア / 伐折羅大将立像（下段左から6番目）ほか」西村 紫苑 Shion NISHIMURA
画用紙・カラーペン・カラーセロハン・セロハンテープ 2017年

広告主募集中!

『会報 天才アート』は、当機構の活動にご賛同いただける企業様や団体・組織の広告協賛を募集しています。会報の発行部数は毎月3,500部で、会員・協賛団体関係機関、各地の美術館などに配布・配架をしています。ご協力、ぜひともよろしく願います。
1枠…1万円（4回掲載）
●お問い合わせ・お申し込みは、
info@tensai-art-kyotoまで

画材・額縁
画箋堂
京都・河原町五条

京都上鳥羽
の
印刷会社

MORI
(有) 森田美術印刷

京都市南区上鳥羽火打形町12 ☎ 075-692-3131

妙心寺 塔頭

養徳院

永代供養のお寺 075-461-2898



吉村建設工業(株)

京都市中京区西ノ京小倉町135番地
075-802-1360



発展、ともに前へ...
洛和会ヘルスケアシステム®

洛和会丸太町病院 洛和会音羽病院 洛和会音羽記念病院
洛和会音羽リハビリテーション病院 洛和会東寺南病院

Kuretake